

第1章

草津川跡地を取り巻く現況

1-1 草津川跡地の概要

基本構想における草津川跡地の範囲は、草津川廃川敷地 (JR 東海道新幹線～メロン街道) L=5.7km および琵琶湖からメロン街道までの河川敷 (河川区域*) L=1.3km の合計 L=7.0km です。現状の草津川跡地は幅員約 60m～110m、面積約 40.0ha となっています。

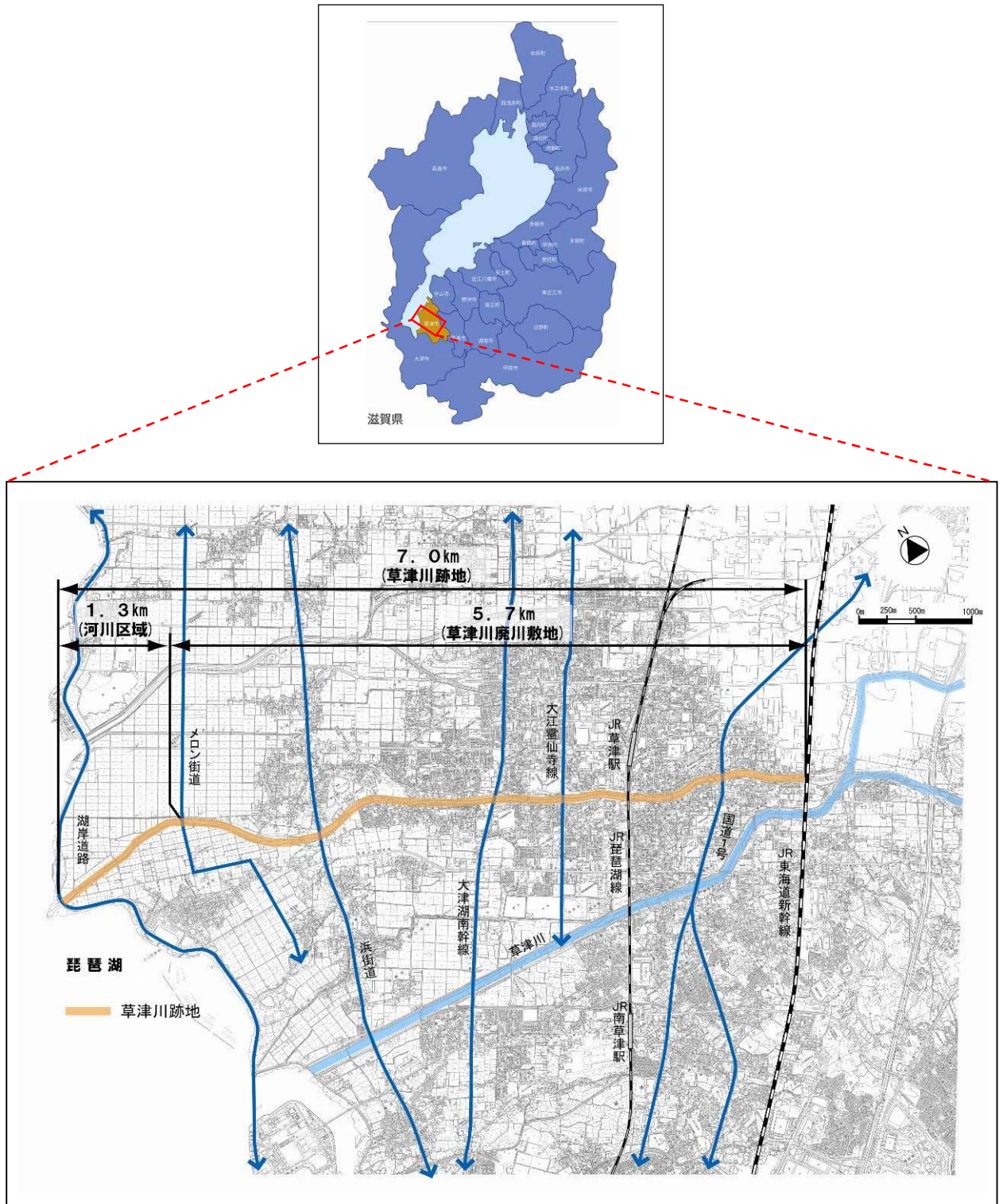


図 1-1 位置図

注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

草津川跡地の航空写真

図 1-2 航空写真(JR 琵琶湖線～JR 東海道新幹線)*

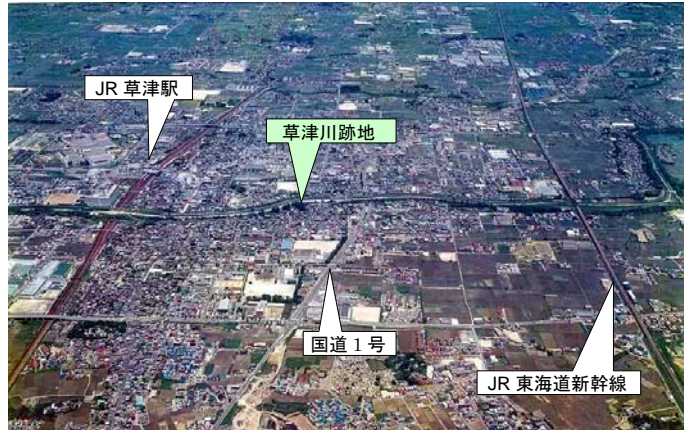


図 1-3 航空写真(弾正公園～上流部)*



図 1-4 航空写真(大津湖南幹線～上流)*



図 1-5 航空写真(草津川跡地 河口部)*



注：*の写真出典先は「参考資料 掲載写真出典一覧」に掲載しています。

1-2 旧草津川の歴史

江戸時代

旧草津川の天井川*化が顕著になるのは、江戸時代中頃からとされています。また、江戸時代には東海道と中山道の2ヶ所の渡し場があり、平常時には徒歩で、有水時には人足の背などに乗り、川を渡っていました。

旧草津川は流路が短く、すぐに砂が溜まってしまうので、雨等によって大量の土砂が草津川等の麓^{ふもと}の河川に流れ込み、急激な川床の上昇をもたらしていました。川床の上昇は、少量の降雨であっても、流域に洪水の被害を生み出すこととなります。これに対する即効的な治水対策は、堆積した川床の土砂の掘り下げしかなく、掘った土砂は川の両岸に盛られ、結果的に堤が高くなっていきました。

このように、土砂の堆積作用と土砂の排除行為といった、自然および人為作用の両方の相乗作用によって旧草津川は天井川化していきました。



図 1-6 「草津川の渡し」の浮世絵*

明治・大正時代

明治時代、交通手段の多様化に伴い、旧草津川は交通を妨げる障害物として問題となりました。そこで明治19年に、本町と大路井の通行の便を改善するためにトンネル(草津川マンボ)が建設され、現在も人々の通行に供されています。明治22年には旧国鉄東海道本線トンネルも旧草津川の下に貫通しています。

また、明治43年、草津小学校の卒業記念として、旧草津川の堤防に楓、桜の植樹が開始され、以後6年間続きました。

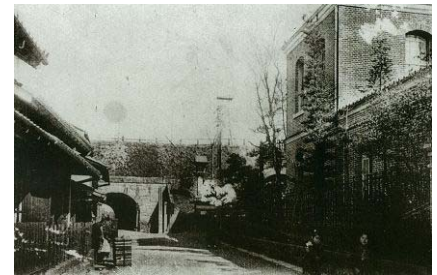


図 1-7 草津川マンボ*

昭和・平成

昭和以降も大雨や台風により幾度となく浸水被害が発生しました。特に、旧草津川の堤防が決壊した昭和28年の台風13号の災害では、3,400戸近くの家屋が浸水するという大きな被害を受けました。

昭和44年からは毎年4月下旬に街道沿いで「草津宿場まつり」が開催されるようになりました。そして昭和46年には現在のJR琵琶湖線複々線トンネルが旧草津川の下に貫通しました。

平成14年に草津川放水路(新草津川)に通水が開始され、旧草津川は廃川となりました。その後も、桜を活かしたまちづくりの推進を目的に平成18年に策定された「草津市桜憲章」等によって旧河川沿いの桜並木の保全・活用等の取り組みが行われています。



図 1-8 台風13号により決壊した堤防*



図 1-9 桜並木*

注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。
注：*の写真出典先は「参考資料 掲載写真出典一覧」に掲載しています。

1-3 人口・世帯数の状況

1) 草津市全域の人口・世帯数の推移

草津市の統計データより、草津市全域の人口・世帯数について、草津川廃川敷地整備基本計画が策定された平成14年度と平成21年度とを比較したところ、人口は6,800人程度、世帯数は5,900世帯程度増加しています。

表 1-1 草津市全域の人口・世帯数

年度	世帯数	人口		
		総数	男	女
H14	43,266	113,796	57,643	56,153
H21	49,177	120,632	60,701	59,931

※各年10月1日時点

2) 草津川跡地沿いの人口・世帯数の推移

草津川跡地沿い1km範囲内の町別にブロックを分け、草津市の統計データを用いて、人口および世帯数について整理しました。

平成14年度と平成21年度の人口を比較すると、JR草津駅東側における人口の変動が著しく、特に渋川、大路1丁目、2丁目などで人口が2,900人程度大幅に増加していることがわかります。一方、草津地区では400人程度の減少がみられます。その他の地域ではあまり大きな変動がありません。

表 1-2 草津川跡地沿川の町別人口

町名	H21.10.1		H14.10.1
	世帯数	人口	人口
下笠町	1,044	3,277	3,228
北山田町	561	1,858	1,921
上 笠(1丁目～5丁目)	2,016	4,848	4,790
木川町	1,819	4,438	4,550
野 村(1丁目～8丁目)	2,671	6,000	6,129
西渋川1丁目 / 西大路町	2,752	6,230	6,344
草津町 / 西草津(1丁目～2丁目)	1,621	4,034	4,076
渋 川(1丁目～2丁目) / 若竹町 / 大 路(1丁目～2丁目)	3,542	8,136	5,284
大路3丁目	326	860	792
草 津(1丁目～4丁目)	1,600	4,005	4,411
東草津(1丁目～4丁目)	1,030	2,469	2,308
青地町	1,766	4,533	4,269
合 計	20,748	50,688	48,102

1-4 交通施設の状況

草津川跡地周辺の交通施設の状況としては、鉄道および主要道路（一般県道以上）などが整備されています。

道路交通量・混雑度*については、「平成17年度道路交通センサス一般交通量調査交通量図*」より抽出し、整理したところ、ほとんどの道路で渋滞が発生している状況です。

また、草津市の統計データを参考に、JR 琵琶湖線の草津駅および南草津駅の利用状況を平成14年度と平成20年度で比較すると、両駅とも利用者総数は5～25%程度増加しています。

1-5 市街化の状況

1) 都市計画公園*

草津市の統計データを用いて、草津市全域における公園・緑地の箇所数と面積について平成14年度と平成21年度を比較したものが、「表1-5 公園・緑地の箇所数および面積」です。これを見ると市域における都市公園*が箇所数、面積共に順調に増加していることがわかります。ちなみに、平成21年度における1人当りの都市計画公園面積は4.55㎡/人となっています。

JR 琵琶湖線～JR 東海道新幹線区間沿川は、公園が整備されておらず、ゆとり空間の少ない状況です。

表 1-3 公園・緑地の箇所数および面積

(単位:箇所、㎡)

年度	都市公園									
	都市基幹公園		住区基幹公園				広域公園		都市緑地	
	総合公園		街区公園		地区公園					
	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積
H14	1	86,000	34	77,206	2	72,400	1	188,800	4	41,311
H21	1	99,000	38	89,967	2	96,400	1	188,800	6	64,157

年度	都市公園		その他			
	緑道		児童遊園		ポケットパーク	
	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積
H14	2	7,896	169	65,175	17	16,970
H21	2	7,896	207	79,812	19	20,329

注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

2) 避難所

草津川跡地周辺で指定されている避難所および広域避難所*については、被害想定に基づき指定していますが、避難所としての機能の充実を図る必要があることや一時集合場所の確保、さらに通勤・通学者や観光者など帰宅困難となった方への避難場所の提供も想定しておく必要があります。

3) 用途指定*

草津川跡地周辺の用途指定状況については「図 1-10 用途指定状況」に示す通りです。

JR 琵琶湖線東側の駅周辺は商業地域、野村および青地町付近の一部は工業地域、その他の地域では住居専用地域となっています。

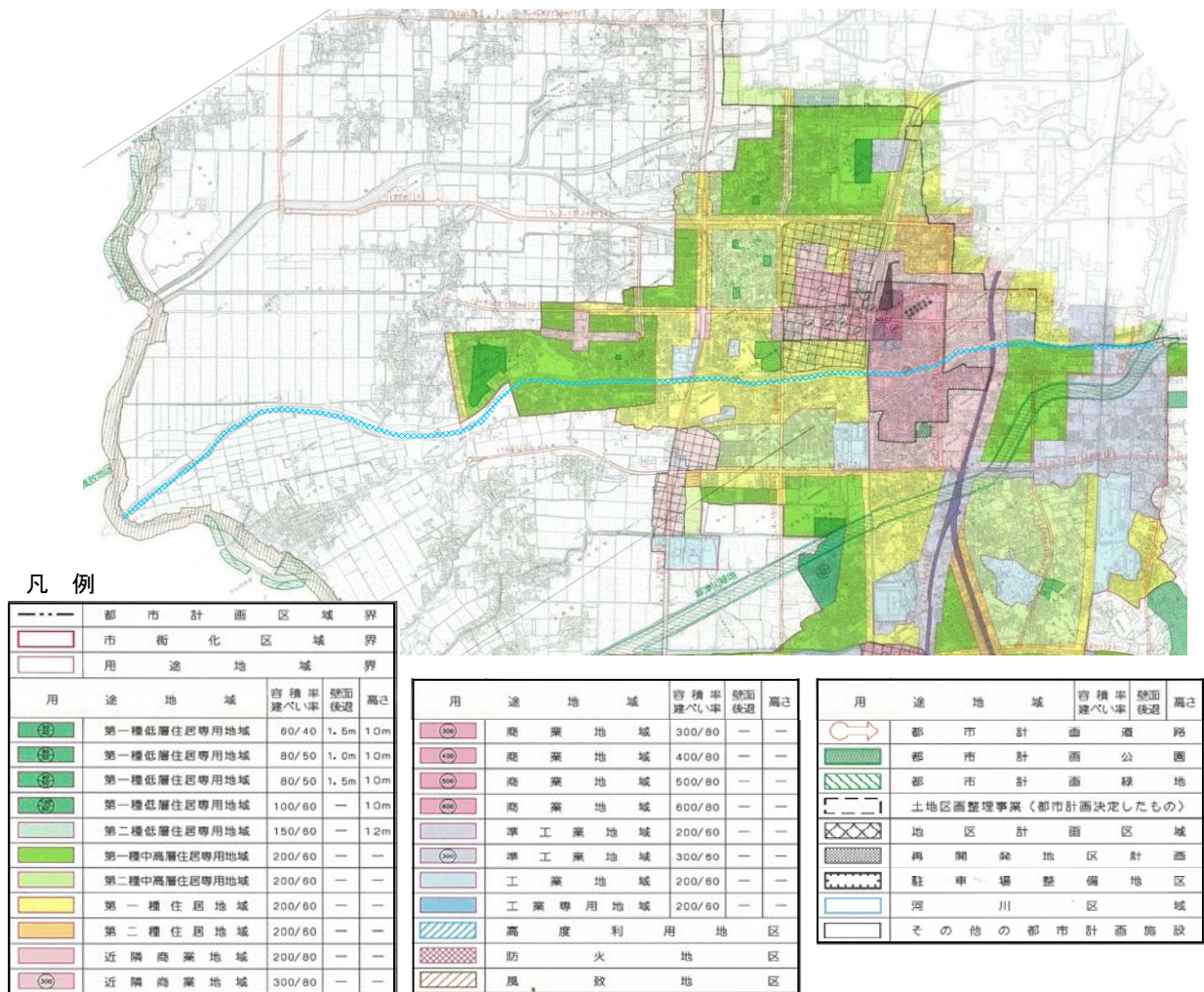


図 1-10 用途指定状況

4) 指定文化財等

草津市域には、平成 22 年 12 月現在、87 件の国・県・市指定文化財ならびに国の登録文化財が所在しています。特に、草津川跡地周辺の旧街道沿いには、国指定史跡の草津宿本陣や石造道標（草津市指定文化財）などの街道に関連する文化財のほか、多くの歴史遺産が残されています。

注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

1-6 自然環境・景観の状況

草津川跡地の自然環境の特徴を「図 1-11 自然環境・景観状況」に整理しました。

大江霊仙寺線から国道1号付近にかけて両岸に桜が立ち並んでおり、桜の観光スポットとなっています。また、山田小学校から下流付近において、河川敷地内に樹木群がみられます。

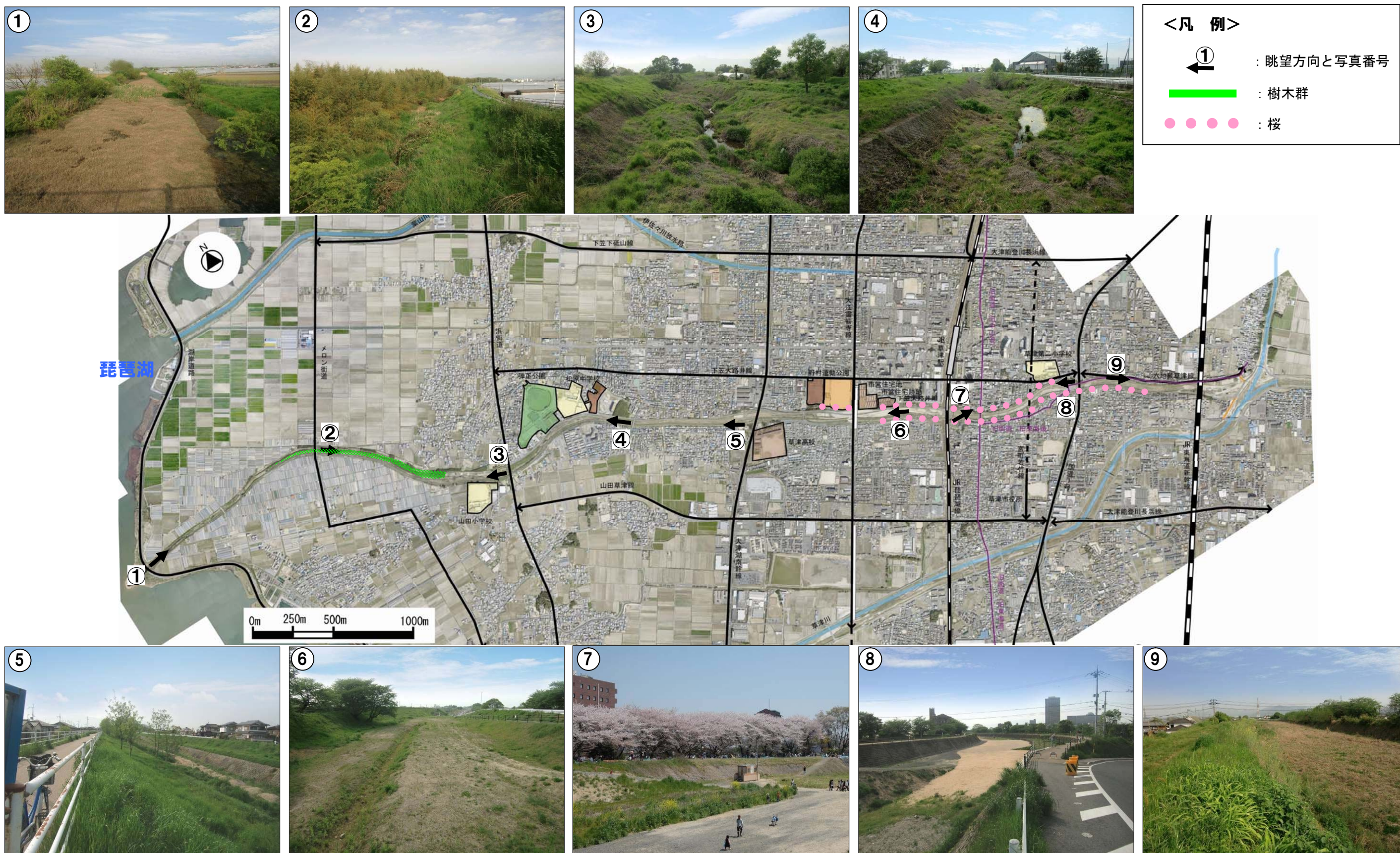


図 1-11 自然環境・景観状況